

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	能登大震災があり、自然災害の怖さや凄まじさを感じた。訓練(備え)の重要性も身にしみた大災害が起きた。地震・土砂災害等の各種防災マニュアルの適宜見直し・更新を継続している。災害は増える一方である現実を受け止めている。ご家族様や民生委員の方と一緒に防災訓練を実施した。運営推進会議でも防災についての意見交換が多く、地域とともに防災への意識をさらに高めていく必要がある。	実体に合った防災訓練の実施	①マニュアルは、適宜更新を行う。 ②訓練は年2回以上実施し、地域の方や家族への呼びかけを行っていく。 ③防災委員を中心とし、新人職員に伝えていく。 ④備蓄品の更新。 ⑤近隣施設等との協力体制の構築・ネットワークづくりを行っていく。	6ヶ月
2	7	今行っているケアが正しいのかどうか、意見を言い合うことが必要。認知症ケアについての知識不足が原因で不適切ケアとなり、さらに見て見ぬふりが身体拘束や虐待につながるリスクとなってしまう。利用者本位となり、職員間での指導が出来るような役割も必要である。また、気持ちよく利用者さんが過ごして頂く生活の場であり、その方に応じた安心できる声かけや関わり方が大切である。	スピーチロック・ 身体拘束(行動抑制)虐待の防止	職員がお互いに注意し合う。利用者様に挨拶や声かけを行い、気持ちよく過ごして頂く。認知症ケアや介護技術などの研修参加や、職員同士で正しいケアが出来るか、確認を行っていく。職員側から見た「利用者様の困った行動」は不安のサインであり、どのように支えていくのが良いのか、話し合っていく。指導する側の職員も日々学んでいき、利用者様の代弁者となり、職員に伝えていけるように努めていく。	6ヶ月
3	23	新型コロナウイルスが5類となり、外出の機会を増やしている。ご家族様との面会や外出も増えてきた。これまで通りの施設内での活動を行い、楽しんで頂くように関わりを行っているが、実際の本人の思いが何であるか、会話や表情からの気づきが少ない。認知症で自身の思いを伝えられない方に対してもっと理解していく必要がある。ご本人と、そしてご家族の思いを受け止めていき、より会話や日常の関わりが必要である。	一人ひとりの思いや 夢への実現に取り組む	気づきの情報の共有。申し送りを行い、職員間で情報を共有する。利用者様との会話の時間を増やしていく。言葉の中や表情から思いを理解し、実現に近づけるよう取り組んでいく。もし、いつもと違った様子(異変)があれば、早期対応を行っていく。ご本人、そしてご家族との会話を大切にしていく。	12ヶ月
4	2	地域の方からはどんな施設なのか、年数を重ねるごとに理解して頂けている。近隣の利用者様も増えてきている。地域の方とのイベントも継続して実施する事も出来た。今後も気軽に相談してもらえるような窓口として、役割を努めていく。	地域の相談窓口としての役割をはたす 地域の方に気軽にってもらえる施設となる	近所の方への挨拶を行い、職員は住民の一員である事を自覚していく。近所の方が困った事あれば気軽に相談を行っていく。地域の方とのイベントを継続していく。 相談窓口としてだけでなく、災害時などにはお互いに支え合えるような施設づくり・関係づくりを行う。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。